

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3670100035
法人名	社会福祉法人 さわらび会
事業所名	グループホーム 野バラ
所在地	徳島県徳島市名東町2丁目456番地 (電 話) 088-633-6567
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 12月 13日

【情報提供票より】(平成19年11月23日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋鉄骨 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	8,400円		その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)		○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)		有りの場合 償却の有無	有／無	
食材料費	朝食	200円	昼食	300円	
	夕食	300円	おやつ	200円	
	または1日当たり		1,000円		

(4)利用者の概要(11月23日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低 78 歳	最高 97 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・川内内科 ・小倉歯科診療所
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム横の小さな畑で利用者が栽培した大根やネギを収穫、皆で調理し、それが食卓にのぼっている。利用者と職員は馴染みの関係がしっかりとできており、毎日の生活の中で一人ひとりの個性や心身の状態にあわせた支援がなされている。また、職員同士のチームワークも良く、母体医院との連携も十分に図られ、安心した生活に繋がっている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はなく、利用者のペースに合わせたきめ細やかな支援が行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は評価を行う意義を理解し、自己評価を全員で取り組みケアについて再確認している。また、見えてきた改善課題については、具体的に改善しサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、3ヶ月に1回の開催となっている。メンバーは利用者、家族、地域住民、地域包括支援センター職員等で構成されている。会議では、現状報告や評価への取り組み、また、認知症や薬剤についての説明や意見交換等が行われている。会議録はファイルし、職員全員に周知している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月発行の「野バラだより」と共に、利用者の暮らしぶりやエピソード等を写真を添えて伝え、機会あるごとに困った事や改善すべきことはないか、家族に尋ねている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	季節ごとの地域の行事や老人会への参加、近所の商店での買物など、日々交流がされている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのふれあいを盛り込んだ事業所独自の理念が つくられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は全職員共通の目標とし、会議や日々の話し合いの中で常に意識し実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	季節ごとの地域の行事、老人会への参加や、近所の商店での買物など、日々交流を持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行いケアサービスについて再確認している。改善課題がある場合は具体的に改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は3ヶ月に1回開催されている。メンバーは利用者、家族、地域住民、地域包括支援センター職員等で構成されている。会議では、ホームの現状報告、評価への取り組み、認知症について、薬剤等についての説明や、意見交換が行われている。会議録は整備され、職員全員に回覧している。	○	2ヶ月に1回開催されたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護保険担当職員と常に相談や連絡をし、連携を図っている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「野バラたより」発行と、3ヶ月に1度、日々の様子を詳細に伝える便りを出している。利用者個々の健康状態などはその都度電話で連絡をしている。職員の異動や金銭の出納も報告し確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会あるごとに、改善すべき事、困っていることはないか聞いている。また、意見箱も設置し、自由に書いてもらい意見を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動については最小限に抑え、新任の職員が馴れるまでは全員でフォローし利用者への影響を防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、法人内研修会に参加している。法人外ではグループホーム協会の相互研修等に積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業を通じて交流ができています。また、系列のグループホームとは毎月2回の利用者同士の交流があり、職員同士も随時勉強会や話し合いを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には、まず、ホームを見学に来てもらい一緒に過ごし雰囲気を覚えてもらうなどし、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で利用者からいろいろな事を教えてもらい、お互いに助け合い、支えあう中で信頼が生まれ、温かい関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望を最優先したケアを心がけている。意向の把握が困難な方は、職員全員で話し合い、より良い方法を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の希望を優先し、ケアに関わる職員が話し合い、医師や看護師等の意見も反映して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回実施状況の評価をし、家族にも見てもらっている。3ヶ月に1回は介護計画を作成し、3ヶ月に満たなくても状態の変化に応じて随時見直しが行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や帰宅等、その都度利用者、家族の要望に応じて対応している。また、ショートステイ利用が可能な体制になっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族に必ず確認し希望する病院に受診し、継続した治療と通院も対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けて家族や医師等と話しあい、全員で方針を共有している。また、状態の変化に合わせて随時連絡を取り合い、利用者、家族の希望を優先し、できる限り支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや対応をしている。記録等に関しても取り扱いには職員全員が十分気をつけており、個人情報保護の勉強会にも参加している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に決まった日課ではなく、その日の利用者の状態に合わせて「したいこと」ができるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物、調理、後片付けと、生き生きとした表情で行い、利用者、職員と一緒に食事をしている。朝、職員と共に収穫した大根が食卓に上っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて、好きな時間に入浴できるよう支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や昔からの慣わしの準備など、職員ができないことをお願いし、教えてもらって一緒に行っている。利用者個々の得意なこと(裁縫・習字・農作業等)をしてもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に添って買物、ドライブ、散歩、外食、墓参りなどを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の開閉時に音楽の鳴るセンサーを付けられ、日中、鍵をかけない支援に取り組まれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と共に避難訓練をしている。消防署の職員による初期消火や避難誘導等の指導も受けている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量とも記録し、把握できている。また、一人ひとりの咀嚼、嚥下、嗜好にあわせた支援が行われている。栄養のバランスなどについては併設施設の栄養士の助言を得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には季節の花や物品、利用者の作品などを飾っている。ホールには畳のコーナーがあり、洗濯物をたたんだり、寝転がるなど、くつろぎの場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族の写真が置かれている。また、利用者の好みでベッドや畳の部屋もあり、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		